

vol.10
Sep.,2026

東京外国語大学文書館報

—Tokyo University of Foreign Studies Archives Newsletter—

Contents

資料紹介 八杉貞利資料群について1 頁
連携企画展の開催について2 頁

東京外国語大学文書館日誌抄録3 頁
企画展の案内ほか3 頁



〔写真〕 豊島昌資料群「リオデジャネイロからの葉書」(1907年10月13日)

豊島昌(1905(明治38)年伊語学科卒、後に葡語部教授)は、貿易業に従事した後、農商務省海外派遣実業練習生となり、「南米ウラゴワイ」(ウルグアイ)を経て「伯刺西爾 リオデジャネイロ」において「雜貨業」に従事しました。この葉書は、1907年10月13日付で豊島昌の義兄に送られたものです。写真中央の街並みは「是がアベニーダセントラルト云フ市街ノ一部」と説明されています。また、この葉書のなかで、豊島はリオデジャネイロの最初期の日本人商店である日伯商会について、「今や日伯商会ノ名ハリオ市ニ通ジテ知レ渡リ客ハ十中八九迄ハ中流上流の紳士全夫人全令嬢」と商会の盛況ぶりを紹介しています。

(資料番号: 豊島昌資料群 95)

「八杉貞利ロシア関係資料群」とデジタルアーカイブ化事業について

倉方慶明(東京外国語大学文書館 研究員)

大学文書館では、2025年度に「図書館振興財団 2025年度振興助成」を受け、東京外国語学校のロシア語教授として戦前・戦後におけるロシア語教育をけん引した八杉貞利の日記帳を中心とした「八杉貞利ロシア関係資料群」について、デジタルアーカイブ化を進めました。資料群とデジタルアーカイブ化事業の概要を報告します。

1. 八杉貞利資料群の概要

八杉貞利(1876-1966年)は、1876年9月16日に東京浅草に生まれました。八杉家は石州津和野藩(現：島根県)の藩医の家柄で、父は陸軍軍医でした。

八杉は、高等師範学校附属小学校、同中学校、第一高等学校を経て、1897年東京帝国大学文科大学博言学科(後に言語学科と改称)に進学し、言語学の研究に邁進します。在学中から、訳書・論文の執筆を進め、言語学会の設立や『言語学雑誌』の創刊に携わる一方、上田萬年に師事しアイヌ語研究に没頭します。1900年7月、東京帝国大学を卒業した八杉は、同年9月東京外国語学校校長事務取扱を兼務していた恩師上田の指示を受け、ロシア語研究を志し、東京外国語学校別科に入学しました。

翌年10月文部省の命によりロシアに留学し、留学中の1903年に東京外国語学校教授に任命されます。日露戦争の勃発に伴い帰国すると、東京外国語学校に加え、東京帝国大学や早稲田大学、鉄道院等において教鞭を執りました。1937年3月に東京外国語学校を停年退官後も、1945年まで非常勤講師として同校にてロシア語教育に従事し、1966年2月満89歳で死去しました。その間、八杉は『露西亜語学階梯』(大倉書店、1916年)や『露和辞典』(岩波書店、1947年)等を著し、戦前・戦後におけるロシア語教育の第一人者でした。

本資料群は、八杉が東京外国語学校において教鞭を執っていた1908年から没年の前年となる1965年までの日記帳や、講義ノート・近影写真等の計65点で構成され、ロシア語教育史の貴重な資料群となっています。

2. 八杉貞利日記について

八杉貞利は、日々日記をつけていました。教え子である和久利誓一によれば、「先生は、きわめてきちょうめんな性格で、日記も少年時代から死の半年ぐらい前まで、一日として欠かされることがなかった」(『ろしや路』Ⅷ頁)そうです。日記帳には、東京外国語大学の前身である東京外国語学校の運営や、八杉が教鞭を執った諸学校での日常が記録されているだけでなく、明治から昭和の諸事件や革命後に渡日したロシア人や満蒙の関係者との交流も多く記載され、当時の社会情勢・国際関係・交流を知るうえで貴重な資料群となっています。

例えば、1936年2月26日-29日にかけて陸軍青年将校らが政府要人を殺害し、永田町・霞が関一帯を占拠した二・二六事件について、日記には「大事件の日」と記載し、八杉が見聞きした状況が記録されています。

当時、東京外国語学校の校舎は皇居お濠端の麹町区竹平町に位置し、事件現場はすぐそばでした。事件が発生した26日、八杉日記には「三時近く何事も知らず帰宅すれば大事変の報あり」と記載されています。28日には学内で「課長会」が開かれ、配属将校の意見も踏まえ、「用心ニ萬一の場合の處置」を検討し、29日朝には戸沢正保校長より八杉に「いよいよ「武力使用始る」ため「本日始業中止」とする旨電話で連絡があったことが記されています。

【写真_企画展「八杉貞利と東京外国語学校」の展示風景】



3. デジタルアーカイブ化事業等について

大学文書館では、八杉貞利資料群の保存と利用環境を整備するため、デジタルアーカイブ化事業を実施しました。資料群について、(1)デジタル化、(2)保存修復と脱酸性化处理を実施し、資料の保存を進めるとともに、(3)画像のマスキング処理と一部公開を行いました。また資料群の利用促進を念頭に、内容・歴史的価値、整備された利用環境を周知するため、(4)講演会・企画展を開催し、成果をまとめた(5)報告書を刊行しました。

デジタル化および保存修復・脱酸性化处理により、八杉貞利資料群については、原則として原本を保存したまま、複製物であるデジタル画像を閲覧に供せることとなり、歴史資料の保存と利用を両立させる環境が整いました。これにより2026年3月に目録を公開し閲覧に供することとなりました。また、2026年1月-4月にかけて開催した企画展「八杉貞利と東京外国語学校」の内容は、大学文書館ウェブサイト特設ページで紹介しています。

(https://www.tufs.ac.jp/common/archives/exhibition_yasugi.html)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連文書の移管について

倉方慶明(東京外国語大学文書館 研究員)

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月にWHOが中国湖北省武漢市で原因不明の肺炎が発生していることを発表し、2020年1月に「国際的な緊急事態」を宣言し、世界的な広がりを見せました。日本国内でも2月には全国の小中高校等への臨時休業の要請が進められ、3月には東京オリンピック・パラリンピック競技大会の延期、4月には緊急事態宣言が発出されました。このいわゆるコロナ禍の開始から、2025年度で5年を迎えることになりました。

これに伴い、コロナ禍初期の2019年度に作成された保存期間5年の法人文書(公文書)もまた、大学文書館に移管されることとなりました。しかし、コロナ関連文書は、「歴史的緊急事態」に関する文書として文書館への移管対象に定められていますが、本学において具体的にどのようなコロナ対応が実施され、どのようなコロナ関連文書が作成・収受されたのかという点は明らかになっていませんでした。そこで、大学文書館ではコロナ関連文書の管理状況を調査し、評価選別方針の検討を進めるとともに、当時の執行部への聞き取り調査を兼ねた座談会を開催しました。本学のコロナ対応に関する座談会の概要はTUFUS

Today(<https://www.tufs.ac.jp/tufstoday/topics/tufsfeatured/25122201.html>)に関連記事がまとまっているため、本稿では、移管対応のなかで見えてきたコロナ関連文書の管理上の課題について報告します。

1. コロナ関連文書の管理に関する国の指針と本学の対応

コロナ関連文書は、行政文書の管理に関するガイドラインや内閣府大臣官房公文書管理課の通知により、移管対象や管理方法が定められています。コロナ対応が始まった2020年3月、公文書管理課は閣議了解を経て、「行政文書の管理における「歴史的緊急事態」の決定について」を発出しました。これにより新型コロナウイルス感染症に係る事態は、「行政文書の管理に関するガイドライン」第3に規定する「歴史的緊急事態」に該当し、その関連文書は、原則としてすべて「移管」とすることが定められました。そして、5月28日付で、公文書管理課より該当する文書の定義と具体的な対応方法を定めた通知が発出されました。

この通知のなかで、「新型コロナウイルス感染症に係る事態への対応に関する行政文書ファイル等」は、「新型コロナウイルス感染症に係る事態に対応するために行われた業務を遂行する過程で作成又は取得した行政文書を含む行政文書ファイル」と定義されました。このコロナ対応の業務には、①基本方針等の立案だけでなく、②実施した取組(発生状況等の情報提供・共有、まん延防止、経済・雇用対策、物資・資材等の供給等)や③各都道府県の要請等を踏まえ実施した取組(事業・行事の中止、施設等の使用制限等)が該当

するものとして、事例を踏まえて説明され、コロナに関連した実施(あるいは中止・制限)された事項はほぼすべて「歴史的緊急事態」に該当する文書となる、という広範な解釈もできる内容になっています。

また具体的な対応として以下が定められました。

- ①名称の設定及び行政文書ファイル管理簿への記載(「新型コロナウイルス感染症」等の文言記載)
- ②保存期間満了時の措置は原則「移管」
- ③適切な保存(点検・監査、管理責任の所在の明確化、确实な引継ぎ、マニュアルの整備・改正、国への報告)

本学では、これを受け、2020年度より法人文書ファイル管理簿の調製マニュアルに、①原則としてコロナ関連文書とそれ以外のファイルを分けること、②ファイル名称あるいは備考に「コロナ関連」に類する文言を付記すること、③中分類に「コロナ関連」の文言を入れること、④保存期間は1年以上に設定すること、⑤保存期間満了後の措置は「移管」とすること、を中心としたコロナ関連文書の管理に関する定めを設け、対応してきました。

2. 移管から見えてきた課題

2025年度に開始したコロナ関連文書を含む移管作業は、こうした対応の成果を見る試金石になりました。移管対象となった318件の法人文書ファイルのうち46件がコロナ関連文書に該当しました。そのなかには、内閣府公文書管理課の通知を踏まえ、通常は「廃棄対象」としている海外渡航や海外留学に関する文書、施設使用許可願なども含まれます。これらを移管対象とすることで、国際交流を主軸とする本学のコロナ禍における教育研究の在り方が検証可能となります。他方で、課題も見えてきました。

第一に、コロナ関連文書に該当する文書の定義が極めて広範にわたる点です。とくに2020年1月以降に実施された業務には何らかのコロナ対応が含まれています。例えば感染拡大を危惧しながら実施された入試や研究会を含むイベントの中止など、広範な業務がコロナ禍の影響を受けており、広義に解釈するとコロナ禍に作成・収受された法人文書ファイルのほとんどが対象となってしまいます。

第二に、対応として法人文書ファイル管理簿の「名称」「中分類」「備考」等に「コロナ関連文書」と記載することをマニュアル上では定めていましたが、実際には文言を付与していない事例が多数確認された点です。

これらの課題は、ファイル管理簿の調製段階から、本学の文書に合わせて「コロナ関連文書」の範囲を具体的に定め、対象を明確化すること、ならびにマニュアル等の周知徹底を図っていく必要性を示唆しており、今後の検討課題と捉えています。

東京外国語大学文書館日誌抄録 (2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

4.4(金)	企画展「内藤家資料群「教科書」にみる府中市域西部における近代教育の変遷～教科書にみる東京外国語学校の教員たち～」一部修正(3/17 開始、5/15 迄)、展示案内 3 名	1.14(水)	授業内講演：渡辺雅司氏(東京外国語大学名誉教授)「東京外国語学校露語科と虚無党精神」開催
4.14(月)	常設展示修正打合せ(歴代学長パネルほか)	1.15(木)	資料寄贈
4.18(金)	常設展示修正打合せ(歴代学長パネルほか)	1.19(月)	ウェブ企画展「八杉貞利と東京外国語学校」開始、資料寄贈
5.7(水)	大学文書館運営委員会	1.28(水)	府中市との連携覚書学内承認
5.9(金)	事務補佐員(新規)勤務開始	1.30(金)	キャンパス北側商業施設建設予定地発掘現場見学会開催
5.15(木)	企画展「学内競漕大会の歴史 2025」開始(7/24 迄)	2.19(木)	施設見学(1 名)
6.5(木)	「令和 6 年度法人文書の管理の状況調査に基づく「法人文書ファイル管理簿」等の提出について(依頼)」及び「法人文書ファイルの回収のお願い」通知(総務企画課)	2.27(金)	点検評価(期末報告)提出、公益財団法人図書館振興財団助成決定(事業名：地域の一次資料を活用した高等教育・中等教育一体型の「利用の促進」モデル構築事業)
6.11(水)	授業「市民社会と文書管理」において本館およびふるさと府中歴史館所蔵資料を用いた体験型授業実施(6.11、6.18 の 2 回)	3.3(火)	小企画展「スペイン語教師ゴンサロ・ヒメネス・デ・ラ・エスパーダと東京外国語学校」開始(4/24 迄)
6.13(金)	第一収蔵庫空調設備修繕工事	3.9(月)	府中市と「国立大学法人東京外国語大学と府中市との歴史公文書等の保存及び利用促進に関する連携覚書」締結
7.2(水)	法人文書ファイルの回収・評価選別(8/20 迄)、移管廃棄検討案調整。各課・室との評価選別結果の協議(8/20 迄)	3.13(金)	連携事業打合せ(ふるさと府中歴史館)
7.7(月)	法人文書受入打合せ、文書館打合せ(評価選別、コロナ関連文書)	3.16(月)	留学生日本語教育センター資料群整理保存打合せ
7.10(木)	コロナ関連文書の調査開始	3.27(金)	特定歴史公文書等目録(2025 年度)・法人文書ファイル移管報告書、八杉貞利資料群目録・東京外国語大学所蔵「八杉貞利ロシア関係資料群」デジタルアーカイブ化事業報告書の公開
7.15(火)	理事副学長会議企画展の件審議、閲覧室兼作業室空調設備修繕工事	2026 年度企画展開催予定 本年度の企画展の開催予定は次の通りです。 ◆開催期間 4 月 八杉貞利と東京外国語学校 4 月～7 月 学内競漕大会の歴史 2026 7 月～11 月 留学生日本語教育センター教材開発いまむかし 12 月～3 月 明治・大正期の海外渡航者たち～豊島昌資料群を中心に～(仮) ◆開催場所：附属図書館 1 階ギャラリー ※開催時間は附属図書館の開館時間に準拠します。	
7.23(水)	文書館打合せ(評価選別)		
7.24(木)	企画展「戦時下の東京外国語学校・東京外事専門学校」の学生たち」開始(1/9 迄)		
8.4(月)	法人文書ファイル移管案決定(8/20 迄一部調整)。移管対象の法人文書ファイル低酸素処理開始		
9.5(金)	ニューズレター(第 9 号)刊行、法人文書廃棄対象溶解処分		
9.18(木)	常設展示修正(歴代学長パネルほか)		
9.24(水)	点検評価(中間報告)提出		
10.1(水)	授業「近代日本のなかの東京外国語大学」(オンライン授業、全 13 回、1/14 迄)		
10.8(水)	府中市中学校社会科教員向け巡研「歴史資料の取扱いを考える」実施		
10.14(水)	施設見学(2 名)・資料寄贈		
11.28(金)	座談会「コロナ禍を振り返る～林前学長が語る対応の背景～」開催		
12.17(水)	授業内遺跡見学会「府中キャンパス移転について～北側の商業施設建設予定地で発見された遺構見学を通して～」開催		
12.22(月)	座談会関連記事「TUFs Today コロナ禍の記憶と記録 当時の執行部が語る 5 年」公開		
1.9(金)	企画展「八杉貞利と東京外国語学校」開催(4/24 迄)		



【左】
企画展
「留学生日
本語教育セ
ンター教材
開発いまむ
かし」

東京外国語大学文書館報 第 10 号 2026 年 9 月 30 日発行

編集・発行 東京外国語大学文書館

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 TEL 042-330-5842

E-mail tufsarchives@tufs.ac.jp

URL <http://www.tufs.ac.jp/common/archives/index.html>